

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 22 日現在

機関番号：34535

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23593205

研究課題名(和文) 災害看護コンピテンシーに基づく教育プログラムと評価尺度の開発

研究課題名(英文) Development of the competencies based disaster nursing educational program and the evaluation scale for learners.

研究代表者

畑 吉節未 (Hata, Kiyomi)

神戸常盤大学・保健科学部・教授

研究者番号：10530305

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000 円、(間接経費) 870,000 円

研究成果の概要(和文)：多発する災害への対応や大規模災害に備えるために、適切で効果的な教育・訓練プログラムの開発を行った。開発した教育プログラムは、看護基礎教育から現任教育までを対象にした災害看護実践力の向上を図るコンピテンシー・ベースドのプログラムである。教育プログラムは看護者の災害看護実践行動の経験の語りから抽出された災害場面を想起させるナラティブシナリオで構成した。また、教育・訓練により計画的に身につけるべき能力を高めるためにラダーを設定するとともに、学びの成果を評価するための災害看護コンピテンシー尺度の開発を行った。

研究成果の概要(英文)：Proper and effective educational disaster program was developed to enhance the nurses' preparation for both the frequently occurred disasters in recent years and the huge disasters predicted in the near future. The program developed is expected for the learners both in the basic nursing education and in the continuing education and training program to improve the capability of the disaster nursing practices. The program is designed with the realistic scenarios that evoke disaster scene extracted from the narratives of disaster nursing practices. The learners' ladder is set to clarify what should be acquired in a step-by-step manner. And the scale for the competency-based disaster nursing practice is developed to evaluate the learners' outcome.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：災害看護 教育プログラム 評価尺度

1. 研究開始当初の背景

(1) 災害看護教育プログラム開発の必要性

多発する災害への対応や発生の危険性が高まる東南海・南海地震等、今後生じる大規模災害に確実に備えるため、適切で効果的な災害看護教育プログラムの開発による災害看護実践力の向上が喫緊の課題である。看護基礎教育においては「災害直後から支援できる看護の基礎的知識を理解すること」を目的として、2009年度から看護基礎教育課程に災害看護教育が導入されたものの、教育すべき具体的な基礎能力は明確にされていない。災害時に過酷な環境下において、最前線に立たねばならない専門職として、多くの被災者に対し質の高い適切なケアを提供できる看護師を育成するために適切で効果的な教育プログラムの開発が求められている。

(2) 実践力を養うプログラム開発

災害時に的確に行動するためには、知識だけではなく、誰が何をどのようにすべきであるかを知ること、自分自身の知識・技術・権限の限界について確かめておくこと、一度そうした限界を超えることがらに直面した場合、どのように対処すべきかを知ること等の高い能力が必要になる。災害は非日常的な出来事なために実際の災害を通しての動機づけや、理解を深めることが困難であるだけに、災害現場で高い実践能力を発揮した看護師の看護実践、困難な状況や直面した課題等の経験から災害看護コンピテンシーを同定しプログラム開発の中で生かすことが重要である。

(3) 国内外の先行研究の状況

災害看護に関する教育・訓練プログラムやカリキュラムの開発が国内外で進められて来た(山本ら 2005)が、我が国では文献をもとに教授内容を抽出・構造化した災害看護教育モデルの提案、日本赤十字社の訓練機会や地域防災組織などの資源を活用したもの(小原・長谷部 2004)などが見られるものの、教育プログラムに関する研究はわずかである。特に、災害看護実践を行った看護師の経験を生かすものは、災害看護の転換点といわれる阪神・淡路大震災から十数年が経過した現在でもほとんど見あたらない。災害から得られた貴重な体験が教育の場で十分に生かし切れていないと言っても過言ではない。また、災害看護能力を測る尺度も見あたらない。

研究者は災害経験を持つ看護師の実践行動から「災害看護コンピテンシーの抽出と構造化」(2009~2010年度・科研費承認番号21890291)を図り、看護師の語りから特徴的な看護行動と直面した困難・残った課題を明確化した。また、兵庫県立大学21世紀COEプログラム(2003-2007)の成果を発展させ、ICN専門看護師コンピテンシーやWHOコンピテンシーなどをもとに災害看護コンピ

テンシーの枠組みを示そうとする試みがある(Donna 2009)ものの、災害看護の実践行動を反映させた具体的なものが明らかにされておらず、高い能力を培うプログラム開発には十分とは言えない。

(4) コンピテンシー・ベースドの教育プログラムと尺度開発

そこで、看護師の災害対応能力を高めるための教育・訓練プログラムの開発をめざし、研究者の研究や他の先行研究を生かしながら、貴重な災害看護実践の成果を生かした、看護基礎教育から現任教育までのコンピテンシー・ベースドの教育プログラムの開発と、教育・訓練により身についた力を評価する災害看護コンピテンシー尺度の開発を行うこととした。

2. 研究の目的

多発する災害への対応や発生の危険性が高まる東南海・南海地震等、今後生じる大規模災害に確実に備えるため、看護基礎教育から現任教育までを対象に、災害看護実践力の向上を図る適切で効果的なコンピテンシー・ベースドの災害看護教育プログラムの開発と教育・訓練により身についた力を評価する災害看護コンピテンシー尺度の開発を行うことを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 災害場面を想起させる災害看護実践行動ナラティブシナリオの抽出

看護師(看護管理者、外来・病棟看護師、被災地を支援するために派遣された看護師)の役割・職位ごとに聞き取った災害看護実践行動の語りの蓄積(災害看護コンピテンシー・ディクショナリー)をもとに、学習者が災害場面を具体的にイメージし、実際にとるべき行動を考える機会を与えることができるナラティブなシナリオを抽出する。

シナリオは、コンピテンシー・ディクショナリーから看護行動を意味的に分析することを通して得た約30のカテゴリーと約200のサブカテゴリーをもとに、具体的で臨場感の高いナラティブな30程度のストーリーを作成する。

(2) 災害看護実践行動に関するラダーの設定と評価尺度の作成

災害看護実践行動に関するラダーを設定するために、看護師の役割・職位ごとの災害看護行動の共通性と個別性を明らかにし、共通性の高い災害看護実践行動からラダーの設定を行っていく。

効率的で効果的な学習が進むように学習者の学びの構造を生かしたラダーの設定を行う。そのため幅広い経験を持ち質の高い災害看護実践行動を積んだ看護管理者を対象に、看護管理者が経験からどのよう

に学んでいるか、その学びの構造を明らかにする。

ラダー設定に併せて、身につけるべき能力の妥当性を高めるために、災害医療の現場でともに働いた医師等の他の医療職の視点から、災害看護実践行動の課題と成果を明らかにし、作成した災害看護実践行動ナラティブシナリオの精選を行う。

作成したラダーをもとに災害時の備えの視点となる自己評価尺度「災害看護実践行動尺度」を作成する。

- (3) 災害看護教育プログラムの開発・試行
災害看護実践行動を行った看護師の経験を物語として学ぶことができるよう、作成した災害看護実践行動シナリオをナラティブな物語として読ませ、考えさせたり、感じ取らせたり、ロールプレイなどの手法により、演じたり、観察したり、評価したりしながら、シナリオに埋め込まれた状況からの学びを促進する教育プログラムを検討・構成する。
構成したプログラムに参加した学習者が学びを確かめるために、「災害看護実践行動尺度」を試行的に適用し、尺度項目の精選、シナリオの質的向上を図っていく。

4. 研究成果

- (1) 災害場面を想起させる災害看護実践行動ナラティブシナリオの抽出

ナラティブ学習の効果性を生かす

看護基礎教育から現職の看護職を対象とする現任教育までを幅広く対象とする教育・訓練プログラムを開発するために、経験に基づいた成人教育の重要性(Linderman 1961、Knowles 1980)を踏まえ、ナラティブ(物語)が持つ効果性(メリアム 2008)を強化するようにシナリオを作成した。看護職は、ナラティブを用いる学習で、その解釈・検討を通して臨床に必要な新たな知識とスキルを発見し身につけることができる(ベナー 2012)。実際の災害現場で教育することは困難なためこの点に注目した。

シナリオ作成に当たり重視した視点

シナリオを作成するに当たっては2つの視点を重視した。第1の視点は看護者の一連の行動の中から特定部分を抽出して再構成すること、第2の視点は時間の経過とともに看護者が直面する固有の医療ニーズや課題、困難を時系列に再構成(役割を超えて行動すべき場面、相互作用の中で行動する場面)である。例えば、前者では「看護管理者は発災直後から亜急性期までの間、病院の医療・看護ケアの体制・環境をどのように整えたか」「病棟・外来看護師は押し寄せる多くの被災者に対してどのように対処したか」「支援看護師は避難所でどのような工夫をして被災者の健康を維持するべきか」といった点に、後者では

「発災→病棟患者の安否確認→一次避難→病院機能の維持→外来での被災者の受け入れ→持続的な医療・看護ケアの提供→避難所への支援→医療が必要な被災者の移送→被災者の健康管理の工夫→…」といった災害時の経時的な流れに焦点を当てた。

具体的なシナリオ例

シナリオはいずれも個々の災害実践の中で看護者が「成果を上げた行動」と「成果を上げることが困難又は出来なかったこと」として語った内容(畑吉節未「災害看護コンピテンシーの抽出と構造化」科研費課題番号 21890291)をもとにしており、特定場面に必要な構成要素の抽出と、複数の看護者の経験を経時的に組み合わせるなどして必要な構成要素をまとめ、それらを組み合わせる30のシナリオを構築した。その際、職位(看護管理者、看護師長等)や役割(外来・病棟看護師、支援看護師等)を超えて災害場面を考えることができるものを抽出するよう配慮した。作成したナラティブの例をあげると、前者については「発災時の直後の混乱期の対応」「死者と遺族のケア」、後者については「働く環境の整備とスタッフの心のケア」「病院と被災地をつなぎ地域を支援する」等がある。

- (2) 災害看護実践行動に関するラダーの設定と評価尺度の作成

設定したラダー例

看護者の役割・職位ごとの災害看護行動の共通性と個別性を明らかにするとともに、それぞれの場面において看護者が直面した状況の個別性や困難性の検討を行った。そのため、看護者の役割・職位に関わらず共通して語られた災害看護実践行動をもとに、看護における技術や知識の習得の段階性を踏まえたラダーの設定を試みた。例えば「発災時の直後の混乱期の対応」を例にあげると、「看護師としての役割を自覚し状況に向き合う」看護者像を基礎に、「個々の患者・被災者の医療ケアに専心できる」「他の看護者と協働して患者・被災者に医療ケア提供及びそのために必要な環境を整備できる」「被災し機能低下した病院の中でも十分に質の高い医療ケアを持続的に提供するために病院全体の機能を再編成できる」「勤務する病院だけでなく被災地の他の医療機関との連携を考え医療ケアを提供することができる」等、概ね4段階程度のレベルで構成している。

ラダーで想定した身につけるべき能力

こうした行動の背景には、先行研究で行った「災害看護コンピテンシーの構造化」の成果を生かしながら、ラダーの設定を通して、それらの「力」の意味づけ、即ち、評価尺度の構成要素の抽出をおこなった。例えば先の例では、「看護者として患者・被災者の人としての尊厳を守るための行動

ができる力」としての【倫理力】を基礎に、「災害現場で発生する想定できないような課題を的確に捉え、先例にとらわれず大胆な解決策を考え出すことができる力」としての【創造力】、「課題に対応した持続可能な医療ケアの提供体制をデザインし、実行する力」としての【計画力】、「変化し続ける患者・被災者の生活を支える地域・医療体制を診断する力（被災状況を適切にアセスメントする力）」としての【診断力】がそれぞれのラダーのレベルに対応している。

その他の評価尺度項目

この他にも多様な場面の中でのラダー設定を行う中で、これらの評価尺度の下位項目を具体的に抽出することができたほか、「患者・被災者が抱える健康課題を読み取る力」としての【対話力】、「看護者として患者・被災者の個々の生活や地域の文化的・歴史的・政治的・経済的背景等の多様性を理解し、医療ケアに生かすことができる力」としての【多様性を認め生かす力】等が評価尺度の構成要素を抽出することができた。これら構成要素と下位項目は、本研究において開発した教育プログラムの試行の評価に用いて、現在、精選を図っているところである。同時に相互関係にあるラダーの精選も進めている。

- (3) 災害看護教育プログラムの開発・試行
成果を上げた看護者の学びの構造の活用
災害看護教育プログラムでの学習方法の検討に当たり、高いレベルの成果をあげた災害看護実践行動を行った看護管理者を対象にして、経験を生かす学びの構造を明らかにした。看護管理者は、第1に「災害時にも通用する人員配置を考え試す」、「管理者として災害時でも客観的に自己評価・自己抑制ができる能力を高める機会を創る」等の日常の看護実践経験を、第2に「思うようにできなかった実践行動からの学び」など災害看護の経験からの学び、第3に「他者のリフレクティブジャーナルからの学び」等、第4に看護者になる以前の生活体験の中での学びをあげる。
教育プログラム構成の理論的枠組み
看護管理者が災害時に成果をあげた行動の背景には、日常・非日常を問わず自らの看護実践の経験を生かす経験学習（Kolb 1984, Gibbs 1988）のプロセスと、他者の経験を文献や手記等の中から学ぶ発見学習（Bandura 1965）のプロセスの効果的な活用があることが推察された。そこで、こうした学びの構造を、看護者の語りから構築したシナリオを生かす教育プログラムの開発のための理論的な枠組みの構築のために生かすことにした。
教育プログラム構成の柱立て
押さえるべき教育内容を効果的に学ぶ災害看護教育プログラムの構成を検討する

ために、ブルームらによる教育目標の分類（「知識」「技術」「態度」）に基づき、災害看護実践行動の経験を持つ看護者が教育内容に求めるものを分類した。災害という非日常的な場面に対処するために、看護管理者、病棟・外来看護師、支援看護師はいずれも基礎的な知識・技術・態度をあげている。その上で、看護管理者は「態度」、病棟・外来看護師は「技術」、支援看護師では「知識」に関する教育内容を求めており、学習の順序性、卒後教育とつないだ現任教育のあり方を考えるために活用する。

教育プログラムの具体的内容

開発したプログラムは知識の網羅的提示に留まらないように、学生のレディネスの確認と災害の実際を見ることからなる「導入」、作成したナラティブシナリオをもとに災害場面を想定したロールプレイ実施からなる「語りの演習」、被災者・支援者の心理理解とコミュニケーション技術、トリアージ模擬訓練からなる「災害看護技術演習」、災害史跡や記録を活用して地域コミュニティの生活に刻まれた経験を読み取る、学びを統合する避難所の設計と設置、被災地を支援する看護やボランティアの備え等の「学びの統合」で構成されている。

教育プログラムの試行と評価

プログラムを試行・評価したところ、学生は災害看護への理解の深まりを単なる知識の習得に留めずに備えにつながる行動の重要性と継続的な学習の必要性に気づくとともに、備えの適応への準備性の高まりが窺えた。災害看護教育は知識を臨床経験により統合することが難しいだけに、リアルな災害看護の実践行動を活かした計画的な学びの機会を提供することが学生の学びにつながることを示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

畑吉節未、松田宣子、災害看護実践行動をもとにした災害看護教育プログラム開発のための基礎的研究 災害看護実践経験を持つ看護師の語りの分析 -、日本災害看護学会誌、査読有（原著論文）、13巻2号、2011、pp. 22-42.

畑吉節未、災害経験を持つ看護管理者が看護基礎教育に求めるもの、日本看護学会論文 - 看護管理 -、査読有、第41号、2011、pp.148-151.

畑吉節未、被災体験を持つ看護師が看護基礎教育に求めるもの - 阪神・淡路大震災を経験した看護師の語りから、日本看

護学会論文 - 看護教育 -、査読有、第 41 号、2011、pp.79-82.

幸島美絵・畑吉節未、看護学生のレディネスを生かす災害看護教育方法の検討、第 44 回日本看護学会論文集—看護教育、査読有、2014 年、pp.27-30.

畑吉節未、災害時に支援者が抱く心理と心のケア、2011 年 4 月 26 日、日本歯科新聞 (第 1693 号)、日本歯科新聞社.

[学会発表](計 12 件)

畑吉節未、災害看護実践行動の語りを活かした教育プログラムの検討、2013 年 12 月 6 日、第 33 回日本看護科学学会学術集会、大阪国際会議場・大阪市.

幸島美絵・畑吉節未、看護学生のレディネスを生かす災害看護教育方法の検討、第 44 回日本看護学会—看護教育、2013 年 10 月 10 日、大宮ソニックシティ・さいたま市.

畑吉節未、災害看護実践行動において成果をあげた看護管理者の学びの構造の検討、第 17 回日本看護管理学会、2013 年 8 月 25 日、東京ビックサイト・東京都江東区/畑吉節未、災害看護教育プログラム開発のための基礎的研究 - 災害看護実践の経験を持つ支援看護師の学びの構造の検討、第 15 回日本災害看護学会、2013 年 8 月 22 日、札幌コンベンションセンター・札幌市. Takako Sasatani, Kiyomi Hata, Changes in terms of disaster preparedness of medical and welfare institutions having experienced the typhoon 9 downpour disaster, 2nd Research Conference of World Society of Disaster Nursing, 2012.8.24, Cardiff City-Hall, Cardiff, Wales, UK.

Kiyomi Hata, Research on commonality and individuality among practical disaster nursing behaviors, 2nd Research Conference of World Society of Disaster Nursing, 2012.8.23, Cardiff City-Hall, Cardiff, Wales, UK.

Takako Sasatani, Kiyomi Hata, Changes in terms of disaster preparedness of medical and welfare institutions having experienced the typhoon 9 downpour disaster - Survey of healthcare workers in the affected area two years later - , The 9th International Conference of the Global Network of WHO Collaborating Centers for Nursing and Midwifery, 2012 年 7 月 1 日、神戸ポートピアホテル・神戸市.

畑吉節未、災害看護の実践経験を持つ看護者が看護基礎教育に求める教育内容の検討、第 22 回日本看護学教育学会、2012 年 8 月 5 日、熊本県立劇場・熊本市.

畑吉節未、災害看護教育プログラム開発の

ための基礎的研究—支援看護師のリフレクティブな行動過程の検討—、第 14 回日本災害看護学会、2012 年 7 月 29 日、ウインクあいち・名古屋市.

笹谷孝子・畑吉節未、台風 9 号豪雨被害を体験した医療・福祉機関の備えの変化～被災後 2 年が経過する被災地の医療・福祉機関の従事者への調査から、第 17 回日本集団災害医学会学術集会、2012 年 2 月 22 日、金沢市文化ホール・金沢市.

笹谷孝子・畑吉節未、台風 9 号豪雨被害を体験した医療・福祉機関の備えの変化～被災後 2 年が経過する被災地の医療・福祉機関の管理者への調査から、第 17 回日本集団災害医学会学術集会、2012 年 2 月 22 日、金沢市文化ホール・金沢市.

畑吉節未、災害時に他の医療専門職がとらえた質の高い災害看護実践行動の検討、第 17 回日本集団災害医学会学術集会、2012 年 2 月 22 日、金沢市文化ホール・金沢市.

[図書](計 1 件)

畑吉節未、日本歯科新聞社、災害時に支援者が抱くストレスと心のケア、「3.11『歯科界の記録』 - 東日本大震災における被害・復興・支援活動 -」、2013 年、240 頁 (170-171) .

6 . 研究組織

(1)研究代表者

畑 吉節未 (HATA KIYOMI)

神戸常盤大学・保健科学部・教授

研究者番号：10530305